

全校児童で描く「渋川生き物絵図」

全学年が生き物テーマ(1・2年生・草花、3年生・昆虫、4年生・鳥、5年生・魚、6年生・土壌生物)を決めて、渋川学区の「生き物さがし」を実施した。学習のまとめとして、全校児童が、生き物や生き物と関わる自分の姿をイラストにして、1枚の「渋川生き物絵図」を完成させた。

1 本校の環境教育について

(1) 校内研究テーマ

「渋川を愛し持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動できる子どもの育成～環境と人との関わりを見つめ、ICT を活用した学習を通して～」

(2) 重視するポイント

本校の校内研究は、持続可能な発展のための教育、ESD の視点に立った環境教育のプログラム開発を進めるということである。

ESD の視点に立った環境教育を進める上で、3つの「つながり」を大切にしている。その3つの「つながり」とは、教材の「つながり」、人の「つながり」、能力・態度の「つながり」である。

2 3つの「つながり」について

(1) 教材の「つながり」

教材間の「つながり」を意識して取り組めるようにと、全学年がESD カレンダーを作成し実践している。ESD カレンダーとは、学年毎に、1年間の教育の中で、各教科・総合的な学習の時間・特別活動等がどのように結びついているのか、カレンダーに項目を示し、その関連を分かりやすく結んだものである。ESD カレンダーには、その学年のめざす子ども像や指導のねらい、持続可能な社会づくりの構成概念の何にあてはまるか明記してある。また、矢印を使って、教材同士の「つながり」を一目でわかるようにしてあり、教師はそのつながりを意識して授業に臨んでいる。1年生から、

6年生までのESD カレンダーを一覧すると、本校の環境教育の学びの系統性や関連性も確認することができる。

(2) 人の「つながり」

学びの中で子ども同士の「つながり」を大切にしている。体験後に、いかに子ども同士を交流させ、個々の気づきをみんなのものにするのかという課題のもと授業の在り方やスキルについて研究をしている。また、積極的に人材を活用し、学習の中で地域内外の人や世代を越えた人との「つながり」も積極的に取り入れている。

(3) 能力・態度の「つながり」

ただ体験を通して地域や生き物について調べるだけではなくて、調べて気づいたことやわかったことをまとめたり、それをもとに身近な環境について考えたり、行動に移したりする態度の育成を目指している。

3 【事例】渋川生き物絵図作り

(1) 単元全体の流れ(全学年対象)

- ア. 昔の渋川を描いた絵図を見て、昔は生き物が身近にいたことや人々が自然と関わった暮らしをしていたことに気づく。そして、今の渋川には、どんな生き物がいるか調べる計画を立てる。
- イ. 全校集会を開いて、各学年が生き物テーマを決めて「生き物さがし」を行い、絵図にまとめることを宣言する。
- ウ. 全学年が、春・夏・秋に地域に出かけて行き「生き物さがし」を実施する。
- エ. 見つけた生き物を紹介する展示物を作り、「しぶかわ ESD ミュージアム」を開館して

地域の人々に伝える。

オ、見つけた生き物や生き物と関わる自分の姿をイラストに描き、生き物絵図に貼りつける。

(2) 子どもの学習を支援する組織

子ども代表・地域代表・専門家・教職員で組織する「渋川生き物絵図作成支援委員会」を立ち上げた。

支援委員会は、年間3回開催し、どのように子どもたちの絵図作りをサポートしていくかについて議論を重ねた。



子どもの活動をサポートする支援委員会

(3) 絵図が完成

完成記念式典では、各学年の代表が参加してテープカットを行った。地域の人々と共に完成の喜びを共有することができた。

環境省より北川環境副大臣と浮島大臣政務官に絵図をご視察いただき、子どもたちが絵図の前で絵解きを行った。



子どもと地域の代表による完成式

(4) 絵図作りの成果

草津市内でも最も都市化された本校区において、全学年がテーマを決めて生き物を探る学習を今年度新たに取り入れた。実際に生き物調査に出かけてみると、たくさんの生き物がいることに気づき、子どもたちは、生き物と関わったり、体験をもとに絵図作りをしたりすることを通して、地域

の人々とのつながりも深まり、地域への愛着を深めることができた。

(5) 課題

子どもたちの描いた「渋川生き物絵図」は、地域のお年寄りの聞き取りをもとに描かれた「渋川風景の記憶絵」と共に地域で大切にしていきたい。今後は、その二枚の絵図を学校や地域でどのように活用していくかが課題である。

全学年が地域の生き物探しを実施したが、教師の生き物に関する知識を高める必要があった。そこで、放課後に生き物に詳しい専門家を呼んで、地域の生き物に関する現地研修会【ミニフィールド研修】を実施したり、各学年の生き物に関する教材開発の進捗状況を共有する会議【教材開発研究会】を開催したりした。今後も地域を扱う環境教育を推進していく上では、教師が地域や生き物への見識を深める必要がある。また、どのように地域の人々の協力を得て、地域学習を深めていくかも課題である。

4 エコスクールの取り組みを振り返って

「渋川を愛すること」をめあてに3つの「つながり」を重視した環境教育を推進してきた。子どもたちは、生き物絵図作りを通して、地域の環境について考え、「ふるさとのすばらしさ」に気づくことができた。また、地域の様々な立場の世代の人との「つながり」を深めることもできた。本校の環境教育は、持続可能な地域づくりやそれを担う人材育成の場であると捉え、実践を深めてきた。



553名の児童と100種を超えるの生き物が描かれた「渋川生き物絵図」

学校名	草津市立渋川学校
住所	草津市西渋川二丁目8-55
電話番号	077-566-6116
E-mail	info@shibukawa-p.sk.ed.jp